

社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年6月6日 / Vol. 046



ご支援総額

2023年5月30日までの寄付総額

122,010,335 円

寄付金使用総額

3291910.58 zł (約9876万円)

5/22(月)～6/4(日)の期間中の寄附金使用額

10082.18 zł (約30万円)

5月22日(月)～6月4日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日)

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

5月26日(金) 29家族が参加 合計 3853.04 zł (約11万5千円)

6月2日(金) 29家族が参加 合計 3775.09 zł (約11万3千円)



ミサンガ作り (週二回)

日本の支援者の方へお渡しするお礼の品として、避難民の方と週2回のミサンガ作りを実施。

先日有志によって実施されたアートワークショップに参加した女の子が、ワークショップで学んだ事を活かしてミサンガに付ける手作りのメッセージカードを持ってきてくれた。

カードは、ペーパーナプキンの絵柄を切り取り、カードに丁寧に貼り付けてデコレーションする方法で作られている。





ポーランド企業の8割以上がウクライナ人を雇用

個人分析センター "Gremi Personal "の調査によると、ポーランド企業の80%以上がウクライナ人を雇用している。

36%の企業で、雇用しているウクライナ人の総数が社員数の10~20%に達している。(企業の1/3は雇用しているウクライナ人の総数が社員数の10%未満。)

10社に1社は社員数の20~40% ウクライナ人を雇用しており、社員数の50% ウクライナ人を雇用していると回答した企業はわずか5%である。

回答者のほぼ半数(43%)が、ウクライナ人は有資格者・無資格者のどちらであっても職を得ることができるかと答えた。

66%の企業が、ウクライナ人は新しい労働環境に対して非常に柔軟であり、ポーランド社会への適応に難しさを感じなかったと回答しており、そのような難しさを感じたウクライナ人はわずか7%だった。

ポーランドの労働市場は、常にウクライナの労働者に手を差し伸べてきた。

しかし、戦争によるウクライナの出国制限により、ウクライナの労働者は深刻な影響を受け、またポーランドの労働市場にも問題を生じさせた。

肉体労働をする男性の代わりに、子連れの女性や高齢者を中心とした難民が次々と労働市場に押し寄せてきたのだ。

その結果、ウクライナ人の6割近くが就職に成功したが、そのほとんどが自分の専門分野ではなく、たとえ大卒であっても、仕事でコミュニケーション可能なレベルのポーランド語の知識がないために、より低い賃金条件で仕事を探さなければならなかった。

ウクライナ避難民向けに行政や民間団体によって提供されている無償のポーランド語講座は、日常会話レベルまでのものが多く、それ以上のポーランド語を身に着けるには、有償の語学講座に通うほかはないが、安くはない講座代をカバー出来ないジレンマが生じている。